

アレルギー疾患を有する学生の食事脂肪酸摂取状況と 血清および赤血球膜脂肪酸構成

ナカノ ヒロミ スミノ キミアキ
仲野 裕美* 住野 公昭^{2*}

目的 アレルギー疾患を有する学生における脂肪酸 (FA) 栄養の指導上有用な科学的知見を得ることを目的とした。

方法 19～20歳の女子学生128人を対象に、食物摂取状況調査、血液検査、身体計測を行った。さらに、血清および赤血球膜のガスクロマトグラフィによる脂肪酸分析を行った。また、アレルギー疾患についてアンケート調査を行い、「正常群」59人、「既往群」45人、「アレルギー群」24人の3群に分けた。食事FAが血清FAおよび赤血球膜FA構成に及ぼす影響について、統計解析を行い、3群間で比較検討した。

結果 1. 全対象者において、食事FAの中で食事n-3 (g) のみが、食事摂取基準の目標量 (2.2 g 以上) を満たしていなかったが、身体計測値、血液検査値にアレルギー疾患の影響は認められなかった。一方、食事n-3 (g) は、赤血球膜n-3 (%) と負の相関を示し、食事n-3 (%) は好酸球数 (%) と正の相関を示した。また、血清n-3 (%) は食事S (飽和脂肪酸) (%) と正の相関を示した。

2. アレルギー群において、反映比赤血球膜M (一価不飽和脂肪酸) (%) [赤血球膜M (%) / 食事M (%)] は高値であった。また、アレルギー体質群 (アレルギー群 + 既往群) の赤血球膜M (%) は食事S (%) と負の相関を示した。

結論 全対象者は食事n-3 (g) は不足していたが、食事n-3 (g) を増加すると赤血球膜n-3 (%) は低値となり、また、食事n-3 (%) を増加すると好酸球数 (%) を増加させる可能性がある。栄養指導時には、食事S (%) の増加に留意すると、血清n-3 (%) が高値になり、特に、アレルギー体質群は、赤血球膜M (%) が低値になる可能性が示唆された。

Key words : 食事脂肪酸, 血清脂肪酸, 赤血球膜脂肪酸, n-3 系多価不飽和脂肪酸, アレルギー疾患

* 夙川学院短期大学

^{2*} 神戸大学大学院医学系研究科環境医学・公衆衛生学教室

連絡先: 〒662-8555 西宮市甕岩町6番58

夙川学院短期大学家政学科食物栄養専攻 仲野裕美